

目次	1面… 原子力発電の安全性向上に向けた取組みのさらなる充実 「安全の誓い」の日の取組み
	2面… 使用済燃料の中間貯蔵施設 電力消費地のご理解活動、 全社一丸で

原子力発電の安全性向上に向けた取組みをさらに充実します

当社は、美浜発電所3号機事故以降、「安全を守る。それは私の使命、我が社の使命」との社長の宣言のもと、安全文化醸成活動を推進するなど、安全最優先の事業運営を行ってきました。

東日本大震災以降、東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえた反省に基づき、規制の枠組みにとどまらない安全性向上の取組み等について、全社を挙げて推進しているところです。

その中で、東京電力福島第一原子力発電所事故から、原子力発電固有のリスクに対する認識や向き合う姿勢が十分ではなかったのではないかとこのことを教訓として学んだことを踏まえ、安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実を進めていくこととしました。

なお、主な取組みのうち、「原子力安全に係わる理念を明文化」・「原子力事業本部における安全性向上に向けた基盤整備」を実施しました。

～原子力安全に係わる理念を明文化～

「原子力発電の安全性向上への決意」を社達^{※1}として制定(平成26年8月1日)

この社達は、社長のリーダーシップのもと、全社一丸となって、立地地域をはじめ社会の皆さまの安全を守り、環境を守るため、原子力発電のたゆまぬ安全性向上に取り組んでいくとの決意をあらためて明文化したものです。当社は、今後の原子力安全に関する全ての取組みを、この理念に基づいて実践していきます。

^{※1} 社達…「経営方針等に関する事項」について定めた最上位の社内規程

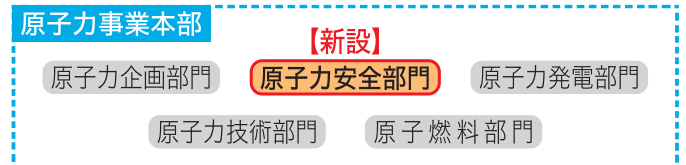
社達「原子力発電の安全性向上への決意」要旨

- はじめに
 - ・当社の全員が、福島第一原子力発電所事故から得た教訓を胸に刻み、立地地域をはじめ社会の皆さまの安全を守り、環境を守るため、たゆまぬ安全性向上に取り組む。
- 原子力発電の特性、リスクの認識
 - ・原子力発電は、エネルギーセキュリティ、地球環境問題への対応、経済性の観点で優れ、わが国にとって将来にわたり重要な電源である一方、大量の放射性物質を取り扱うため、放射線被ばくや環境汚染を引き起こすリスクがある。従って、適切な管理を怠って重大な事故を起こせば人や環境に甚大な被害を与えることを、当社の全員は片時も忘れない。
- リスクの継続的な除去・低減
 - ・安全性を向上させるために、原子力発電の特性とリスクを十分認識し、「ここまでやれば安全である」と過信することなく、絶えずリスクを抽出・評価し、それを除去・低減する取組みを継続する。これを深層防護の各層で行う。
- 安全文化の発展
 - ・リスクに対する継続的な取組みの基盤は安全文化であり、美浜発電所3号機事故を契機に再構築に取り組んできた安全文化を高めていく。
 - ・そのため、これまで以上に、問いかけ・学び・社会の声に耳を傾ける姿勢、自由闊達な議論と多様な意見の尊重などを徹底していく。
- 安全性向上の決意
 - ・原子力発電の安全性向上は経営の最優先課題である。それらの取組みについて、立地地域をはじめ社会の皆さまとの双方向のコミュニケーションを一層推進し、原子力発電の安全性について認識を共有することが重要である。
 - ・社長のリーダーシップのもと、全社一丸となって、たゆまぬ安全性向上に取り組む。

～原子力事業本部における安全性向上に向けた基盤整備～

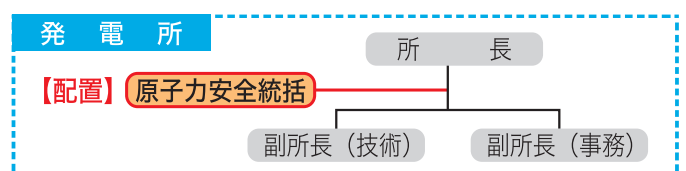
原子力安全部門を新設(平成26年6月26日)

- 「原子力安全」と「核セキュリティ」に関する機能を集約し、安全性向上に係る取組みを一元的に推進するため、新たに「原子力安全部門」を設置しました。



「原子力安全統括」を配置(平成26年6月26日)

- 全ての発電所に、発電所長に次ぐ職位として「原子力安全統括」を配置し、安全俯瞰人材^{※2}をその職位につけました。



^{※2} 安全俯瞰人材…発電所の設備全般や事故時のプラントの状況変化等を熟知し、事故時・平時において、安全対策を上層部に進言できる人材

(「原子力安全統括」は、平時は安全性向上を推進し、事故時には、発電所長の技術的判断をサポートする参謀としての機能を担います。また、事故時対応能力の向上、安全俯瞰人材の計画的な育成・配置にも取り組んでまいります。)

美浜発電所3号機事故から10年

「安全の誓い」の日に、事故当時の原点に立ち返り、原子力の安全文化の発展を誓いました



8月8日(金)「安全の誓い」の碑の前で安全最優先の事業活動を誓う八木社長



8月9日(土)15時22分 事故発生時刻に合わせて黙祷を行う八木社長(前列左から4人目)

社長宣言 「安全を守る。それは私の使命、我が社の使命」

使用済燃料の中間貯蔵施設 電力消費地のご理解活動、全社一丸で

福井県の皆さまには、常日頃、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、原子燃料サイクルを推進するという国の基本的方針に基づき、原子力発電により発生した使用済燃料は、再処理することとしています。原子燃料サイクルを進めつつ、原子力発電所を将来にわたって安定的に運転していくためには、再処理するまでの間、使用済燃料を適切に貯蔵・管理できる中間貯蔵施設は是非とも必要な施設です。

福井県の皆さまには、原子力発電への深いご理解のもと、これまで40年以上にわたり原子力発電所の安全・安定運転に関し、多大なご支援・ご協力をいただけてきました。そのため当社は、原子力で発電した電気を使用させていただいてきた消費地の皆さまにも原子力発電についてご理解をいただき、使用済燃料の中間貯蔵についてご協力をお願いできないかと考え、これまで自治体や地域の皆さまに対し、原子力発電や中間貯蔵施設についてご理解をいただく活動に努めてきました。

昨年6月には、私が責任者となって、立地、広報、地域対応など、中間貯蔵施設設置に向けたそれぞれの取組みを統括し、総合的に推進する組織として『リサイクル燃料資源中間貯蔵施設設置推進プロジェクトチーム』を、また、翌7月には社長をトップとする『リサイクル燃料資源中間貯蔵施設設置推進会議』を設置しました。

こうした体制強化を行ったことによって、中間貯蔵施設設置推進に係る全社方針や戦略を取りまとめ、状況に応じて都度見直ししながら、関係する全部門が連携し、支店や営業所等も巻き込んで取組みを進めていくことができるようになりました。

現在、立地地点確保に向けてさまざまな可能性を検討するとともに、広く電力消費地の皆さまに、中間貯蔵施設はもとより、その背景としての原子燃料サイクルや原子力発電事業全般についてご理解をいただく活動を、全社一丸となって行っているところです。

今後も着実に理解活動に取り組み、電力消費地での中間貯蔵施設の設置実現に向けて全力を挙げてまいります。



関西電力株式会社
取締役
副社長執行役員
岩根 茂樹

(リサイクル燃料資源
中間貯蔵施設
設置推進責任者)

電力消費地で中間貯蔵に関するさまざまな理解活動を続けています

●訪問説明を1500回以上実施

中間貯蔵施設や原子燃料サイクル、原子力発電事業についてご理解いただくため、福井県下を除く当社供給区域内の全ての自治体等に対し平成25年6月以降、原子力発電全般に関して延べ5400回以上、うち中間貯蔵に関しては延べ1500回以上の訪問説明を実施しています。



●原子力発電所見学会を300回以上実施

消費地の方々を対象とする原子力発電所の見学会の中で、中間貯蔵施設の必要性についても説明しています。このような見学会を平成25年6月以降、300回以上実施し、5000人以上の方にご参加いただいています。



●講演会の実施

都市部での理解活動として講演会等を実施しています。

●説明ツールの整備

理解活動に必要なパンフレットやDVD等の説明ツールを整備・更新しています。



【理解活動によって得られた結果】

●いただいたご意見の一例

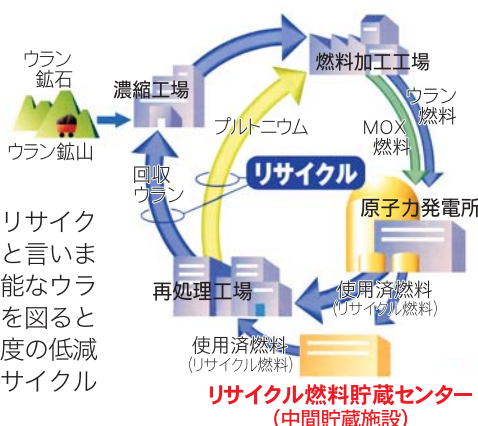
- ・福井県から電気を送っていただいております、福井県の皆さまには感謝している
- ・原子力発電所が稼動する上で中間貯蔵施設は必要であることが分かった

●原子力発電所見学会に参加された方のアンケート結果

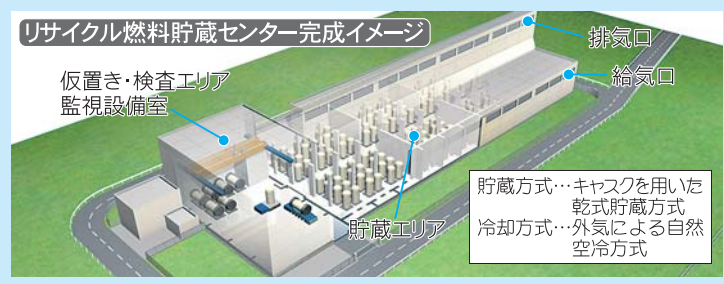
- ・中間貯蔵施設についての認知度
……見学会前約40% ⇒ 見学会後90%以上にアップ
- ・中間貯蔵施設の必要性
……80%以上の方が必要性を理解

原子燃料サイクルとは？

原子力発電所で一度使用した燃料(使用済燃料=リサイクル燃料)の中には、まだ燃料として利用できるウランやプルトニウムといった多くのリサイクル可能な資源が残っています。再処理工場でこれらを取り出し、加工などをして再び燃料として利用(リサイクル)する一連の流れを「原子燃料サイクル」と言います。原子燃料サイクルにより、リサイクル可能なウラン、プルトニウム資源を取り出し、有効利用を図るとともに、高レベル放射性廃棄物の体積や有害度の低減も可能となることから、わが国では原子燃料サイクルを推進していく方針が採られています。



リサイクル燃料貯蔵センター(中間貯蔵施設)
将来のエネルギー資源となるリサイクル燃料を再処理するまでの一定期間、金属キャスク(以下、キャスク)と呼ばれる専用容器に入れて安全に貯蔵・管理するための施設です。



関西電力株式会社

原子力事業本部 地域共生本部 広報グループ 〒919-1141 福井県三方郡美浜町郷市13号横田8番 ☎0770-32-3633(直通)

本誌に対するご意見・ご感想等は、当社ホームページからお寄せください。

(当社ホームページ) <http://www.kepcoco.jp/corporate/info/community/wakasa/ew/>

越前若狭のふれあい 検索